

事業名：学力向上総合対策事業

連携地域：幸千中学校区小中連携地域

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
福山市立千田小学校	22	622人
福山市立御幸小学校	29	784人
福山市立幸千中学校	19	586人

(H26.11.1現在で記入)

### 1 指導上の課題

(1) 児童生徒が「分かった」と感じる授業づくりが十分ではない。

	目標値	6月	11月	2月
中2数学：授業は分かる	70%以上	67.3%	59.5%	67.9%
小5国語：授業は分かる	80%以上	73.8%	71.8%	77.6%

(2) 通過率30%未満の児童生徒の割合を「0」に近づけることが十分ではない。

	目標値	H24市調査 (中1：2月)	H25基礎・基本 (中2：6月)	H25市調査 (中2：2月)
中2数学 通過率30%未満	6.0%以内	7.4%	7.5%	7.9%
小5国語 の生徒の割合	3.0%以内	10.5%	3.5%	3.5%

(3) 「自分の考えを書く」ことに課題がある。

教科	領域	福山市調査問題結果	分析
小5 国語	読む	場面の移り変わりや情景の想像 (53.0%)	人物の心情を根拠となる表現をもとに想像させる活動が不十分である。
中2 国語	読む	心情の把握 理由を書く (41.7%)	読み取った心情を、自分の言葉で適切に表現する力に課題がある。

### 2 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

学力の向上と自己指導能力の育成

～自分の考えを書き、伝え合う活動を通して～

②研究のねらい

学力を向上させるためには、児童生徒に最後まで学習に取り組ませ、「できた」「わかった」を実感させる授業づくりを研究・実践していくことが必要である。そこで、「付けたい力」を明確にした単元計画作成と幸千中学校区『授業モデル』の実践を柱に授業改善を図る。

(2) 取組の重点項目

【教師指導・生徒指導】

「書く活動」を通して自分の考えを明確にし、友達と伝え合う。

- ①「付けたい力」にせまる単元計画をつくる。
- ②幸千中学校区『授業モデル』に基づく授業を実践する。
- ③通過率30%未満の児童生徒への手立てを行う。

【授業づくりの基盤】

「時間」を意識し、学習の段取りができる。

- ①チャイム着席を徹底する。
- ②児童生徒の自治的活動を仕組む。

### 3 実践事例

【教師指導・生徒指導】

(1) 具体的な取組内容

- ①「付けたい力」に迫る単元計画をつくる。
  - ・全教職員が『授業づくりシート』を作成した。
  - ・授業実践後に『授業づくりシート』を加筆修正し、次に活用

できるように引き継いだ。

②幸千中学校区『授業モデル』に基づく授業を実践する。

- ・各校で、示範授業や「みる・みせる」取組を行い、授業モデルの徹底を図った。
- ・授業の様子や板書を写真にとり、それをもとに授業実践集を作成した。

授業記録

単元「生き物つながりの中心」

【めあて】根拠を挙げて生き物の主張を採り取り、自分の考えをまとめる。

【考えをまとめる】

まず、自分でキーワードを見つける



【ふかめる】

○ペアで伝え合う活動



○同じ意見をもった児童に発言を誘わせ、それぞれの考えを深めることができるように



【ふりかえる】

○キーワードを渡ってめあてに合ったまとめをする。

【まとめ】

筆者は、「あなたは、たった一つのかけがえのない存在であり、たくさんのつながりの中で、生き物として生きていることは必ずき」と主張しているの、自分の命を大切に、尊敬に感謝して生きていきたいと思った。



【30%未満の児童への手立て】  
手立ての授業の流れがひと目で分かる授業用紙

【30%未満の児童への手立て】  
キーワードが見えて分かる精選的な板書



授業記録 6年生 算数科

授業者 (門前 忍)

単元 「どんな式になるか考えよう」

【めあて】2つの量の関係を数直線から式に表し、説明しよう。

【問題提示：つかむ】

問題提示・導入の工夫：家庭学習で3本の数直線から分かったことと気付いたことをワークシートに記入しておく。本時の問題文を提示し、3本の数直線の中から本時の問題に対応する式を「ふさだし」に「自分の考えを書き」説明。

個人対応した授業：つまみ棒の活用



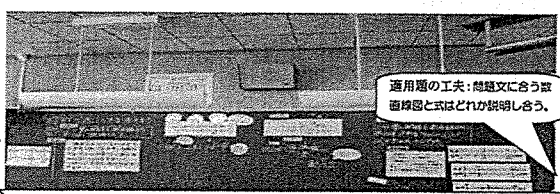
【自力解決：数直線から式に表す書く活動】



【繰り返し：自分の考えを伝え合う活動】



【まとめ：本時のキーワードを子どもから出させ、めあてに対応したまとめをする。】



【適用題の工夫：問題文に合う数直線図と式はどれか説明しよう。】

【授業改善ポイント】2つの量の関係性を式・表・図を用いて、根拠をもって説明させることにより、単位量当たりの大きさを求めたり、それを用いて問題を解決したりする場面や意味を理解させる。

【まとめ】2つの量の関係を数直線図に表せば、それを手がかりに式を求めることができる。

1学期授業実践 2014、山手ゆ

めあて: これまでに経験したことを英語で伝えよう。

国名	ポイント
1 Brazil	
2 France	
3 England	
4 India	
5 America	
6 Canada	
7 China	
8 Korea	
9 Italy	
10 New Zealand	
合計	

1. Warm-Up & 既習事項の確認<ペア> 国・国  
A: Which country have you ever visited?  
あなたはこれまでどの国を訪れたことがありますか。  
B: I have visited Brazil before.  
私は以前ブラジルを訪れたことがあります。

10秒から1分遊び、訪れたことがあると仮定する。  
クラスメイトにインタビューし、2分間でできるだけ多くのクラスメイトにインタビューしてくる。  
それぞれの国にはポイントが隠されており、合計点を競う。

2. モデル文の理解 国・国  
I have eaten ostriches before.  
I have seen Mr. Children before.  
I have been to Hawaii before.  
I have played sepak takraw before.

例文の国名を覚えることで、すべての生徒が活動に参加できる。  
どの文がウソかを考えさせることで、すべての生徒を授業に参加させる。さらに、英文を書くときの意図づけとする。

教師のこれまでの経験を開く。ただし、1つはウソ。グループで相談して、どの文がウソかを考えて発表する。

3. 英文書く4人グループ 国  
1人につき1つずつ、これまでの経験について英文を書く。ただし1つはウソを書く。

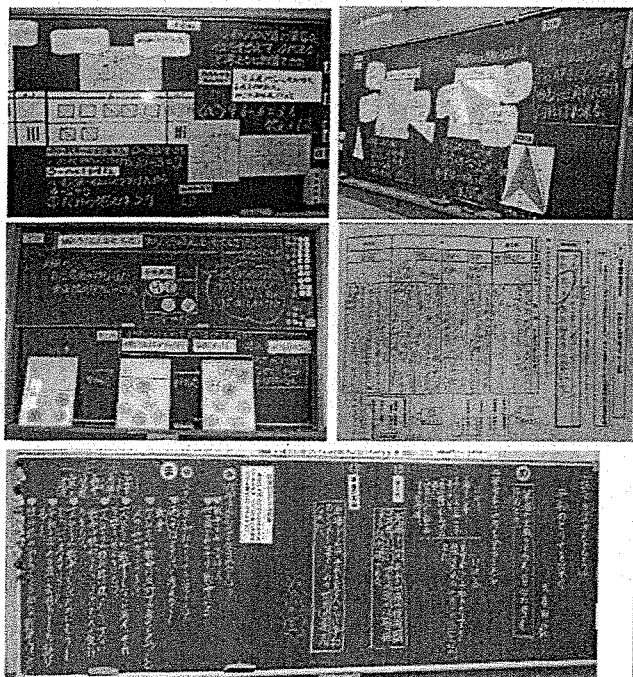
4. 発表 国  
他のグループの発表を聞いて、どれがウソかを考えて当てる。当てた合計得点を競う。

5. まとめ  
I have been to Hawaii before. 以前  
私は以前ハワイに行ったことがあります。

6. 振り返り 国  
自分のこれまでの経験について、英文を書く。  
●O生徒の英文より○●  
I have seen a tank before. 私は以前に戦艦を見たことがある。  
I have kept killifish before. 私は以前にメダカを飼ったことがある。  
I have eaten a frog before. 私は以前にカエルを食べたことがある。

必ず1人1文書けるようにする。書けた人は持ってきて、Oをもらう。

- ・小中合同研修会では、授業実践集をもとに交流を行った。また、「2学期の授業改善に向けて」というテーマでグループ協議を行い、授業改善の視点を再確認した。
- ・小中合同研修会では、各教科における言語活動の重要性について共通理解した。
- ③通過率30%未満の児童生徒への手立てを行う。
  - ・板書では、めあて達成に必要なキーワードを、色チョークや枠で目立たせるなど視覚的な支援を行った。
  - ・ヒントカードを作成し、自力で問題解決できるようにした。
  - ・1時間の授業ポイントを意識したワークシートを作成した。



(2) 検証

①児童生徒アンケート「授業がよくわかる」の割合

小学校国語科、中学校国語・数学科における「授業がよくわかる」の数値、児童生徒の「自分の考えを書く」ことへの意識が向上した。

千田小学校6年生		H256月	H266月	H2611月	H262月
国語	国語授業がよく分かる。	73.7%	81.4%	80.7%	74.3%
	目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。	53.4%	59.3%	65.6%	58.7%
算数	算数授業がよく分かる。	84.6%	83.2%	88.5%	81.7%
	自分の解き方や考えの説明をノートに書いている。	61.5%	78.8%	78.0%	73.4%

御幸小学校6年生		H256月	H266月	H2611月	H262月
国語	国語授業がよく分かる。	82.3%	83.3%	92.9%	89.5%
	目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。	68.2%	72.8%	94.8%	99.0%
算数	算数授業がよく分かる。	89.4%	90.3%	94.7%	92.1%
	自分の解き方や考えの説明をノートに書いている。	85.9%	92.9%	95.6%	97.3%

幸千中学校3年生		H256月	H266月	H2611月	H262月
国語	国語授業がよく分かる。	81.0%	82.5%	81.9%	83.0%
	目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。	56.9%	68.4%	69.2%	76.0%
数学	数学授業がよく分かる。	67.3%	70.2%	58.7%	73.0%
	自分の解き方や考えの説明をノートに書いている。	64.4%	69.0%	76.2%	72.6%
英語	英語授業がよく分かる。	70.1%	69.0%	66.2%	67.0%
	考えや気持ちなどが親身に正しく伝わるように一文一文正しく書くこととともに、文と文とのつながりに注意している。	67.3%	74.9%	75.6%	67.8%

②校教職員アンケート

教員の授業改善への意識が向上した。

中学校区 (平均)		H256月	H266月	H2612月	H262月
付けたい力を明確にした単元指導計画をたてている。		75.9%	87.0%	96.3%	96.3%
チャイムで始まりチャイムで終わる授業をしている。		82.8%	85.8%	92.6%	98.7%
具体的に分かりやすいめあてを設定している。		93.1%	91.7%	93.9%	96.3%
自分の考えを詞・言葉・絵などを使って書く活動を豊富に行っている。		72.4%	72.9%	92.6%	92.5%
通過率30%未満の児童・生徒に対して手立てを工夫している。		70.1%	74.1%	80.4%	86.3%
目的に応じた小集団で、伝え合う活動を行っている。		66.7%	80.0%	85.3%	91.3%
めあてを意識し、学習用語を使ったまとめができています。		65.5%	82.3%	85.3%	95.0%

③調査問題の通過率の比較

ア 全国学力学習状況調査【B問題】

活用力を問う調査問題において通過率の向上がみられた。

内 容	学校	H25全国B	H26全国B
国語：根拠を明確にして自分の考えを書く	千田小	2.2	2.3
	御幸小	1.7	13.3
	幸千中	-3.9	-0.4
算数・数学：事柄を説明する	千田小	-5.6	2.6
	御幸小	4.6	12.5
	幸千中	-10.5	4.0

イ 通過率30%未満の児童生徒の割合(同一対象児童生徒)

小学校では、30%未満の児童生徒の割合を目標値以下にすることができたが、中学校では30%未満の児童生徒の割合を減少させることができていない。

千田小学校		H24福山府調査 (小4:2月)	H25基礎・基本 (小5:6月)	H25福山府調査 (小5:2月)	H26福山府調査 (小6:2月)
国語	通過率	68.9%	78.4%	67.3%	70.8%
	通過率30%未満の生徒の割合	2.5%	3.4%	2.6%	0.9%
算数	通過率	74.0%	68.7%	62.6%	66.0%
	通過率30%未満の生徒の割合	1.7%	4.2%	1.7%	5.5%

御幸小学校		H24福山府調査 (小4:2月)	H25基礎・基本 (小5:6月)	H25福山府調査 (小5:2月)	H26福山府調査 (小6:2月)
国語	通過率	61.3%	81.1%	65.4%	76.0%
	通過率30%未満の生徒の割合	10.5%	3.5%	3.5%	0.8%
算数	通過率	76.0%	78.4%	82.4%	78.6%
	通過率30%未満の生徒の割合	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%

幸千中学校		H24臨時調査 (中1:2月)	H25基礎・基本 (中2:6月)	H26臨時調査 (中2:2月)	H26臨時調査 (中3:11月)
国語	通過率	74.9%	75.1%	79.1%	66.1%
	通過率30%未満の生徒の割合	1.2%	1.7%	0.0%	4.1%
数学	通過率	74.0%	67.3%	65.1%	67.0%
	通過率30%未満の生徒の割合	7.4%	7.5%	7.9%	7.5%
英語	通過率	68.6%	69.2%	67.9%	61.5%
	通過率30%未満の生徒の割合	4.9%	4.6%	4.3%	6.4%

④家庭学習時間

小学校においては「家庭学習の手引き」を使って保護者啓発を行い、「ふだん」の家庭学習1時間以上の割合60%の目標値を達成できた。中学校では、中1から中2にかけて家庭学習1時間以上の生徒の割合が徐々に減少していく実態がある。

		小5年生	小6年生	中学1年	中学2年	中学3年
ふだん(月曜日～金曜日、1時間以上勉強しています)	6月	58.3%	77.1%	73.1%	43.5%	41.5%
	11月	65.9%	76.0%	69.8%	36.0%	63.9%
	2月	66.5%	73.3%	64.3%	40.6%	63.0%
休日(土曜日・日曜日・祝日、1時間以上勉強しています)	6月	42.9%	59.9%	53.4%	44.6%	40.9%
	11月	44.3%	59.9%	64.6%	37.6%	64.0%
	2月	40.7%	43.8%	51.4%	44.0%	64.0%

『授業づくりの基盤』

(1) 具体的な取組内容

①チャイム着席を徹底する。

- ・チャイム着席の指標(レベル1~4)を設定し、チャイム着席強化週間を設け、徹底を図った。
- ・中学校では、達成状況に応じて内容をレベルアップさせ、生徒会学級委員会と学習係が中心となり、呼びかけのポスター作成と点検活動を実施した。
- ・小学校では「授業の4つのきまり」、中学校では「授業のための8か条」を常時掲示し、授業規律を意識させた。

(2) 児童生徒の変容

①チャイム着席強化週間達成率

小学校では、席に着いて始業のチャイムを聞くことが習慣化してきた。中学校では、学習係の呼びかけで教科書・ノートを開き、教科書を読む姿が見られるようになった。

	6月	9月	11月	2月
小学校4年生	90.2%	85.2%	84.2%	78.7%
5年生	92.0%	92.6%	92.6%	91.6%
6年生	99.0%	99.0%	99.0%	98.6%
中学校1年生	69.8%	89.6%	94.0%	95.3%
2年生	68.6%	79.2%	88.0%	89.8%
3年生	60.2%	77.2%	86.0%	77.8%

4 研究の成果と課題等

(1) 成果

- 校区教員の授業改善への意識が確実に向上した。
  - ・単元で「付けたい力」を明確にする意識が向上し、単元計画に生かされるようになった。20.4ポイント上昇※1
  - ・自分の考えを書かせ、伝え合う活動を授業に位置づけるようになった。それぞれ20.1ポイント※2, 24.6ポイント上昇※3
- 8校全教員が『授業づくりシート』を作成するとともに、各校授業実践集を作成した。『授業づくりシート』は中学校全教科で73単元、小学校で100単元が形となっている。
- 児童生徒の「自分の考えを書く」ことへの意識が向上した。
  - ・教員の意識と児童生徒の意識が連動して向上した。

書く意識の上昇ポイント	国語	算数・数学	英語
千田小学校	5.3	11.9	
御幸小学校	30.8	11.4	
幸千中学校	19.4	8.2	0.5

- 活用力を問う調査問題において通過率の向上がみられた。
  - ・国語「根拠を明確にして自分の考えを書く」、算数・数学「事柄を説明する」問題において3校とも数値が上昇した。
- 各校がチャイム着席の強化週間を設定し取組むことができた。
- 時間を意識して授業への段取りをすることが習慣化してきた。

(2) 課題

- 『授業づくりシート』については、「付けたい力」にせまる単元計画になっているか、さらに検証が必要である。
- 自分の考えを書こうとする児童生徒は増えたが、相手に伝えるように論理的に書く力が付いていない。
- 「書く活動」については、「付けたい力」にせまるために、書く視点を明確にする必要がある。
- 30%未満の児童生徒の割合を減少させることが十分ではない。教職員意識調査「30%未満の児童・生徒への手立てを工夫している」の項目で十分な取組がなされていないことが表れている。
- チャイム着席の取組によって明らかになった児童生徒の実態に対して、丁寧な改善策を実施し、学習環境を整える必要がある。
- 中学校2年生の家庭学習の時間を長くする工夫が必要である。

(3) 今後の改善方策等

- ・『授業づくりシート』を持って『授業モデル』を実践することを日常化し、単元計画の内容を「付けたい力」にせまるものにしていく。
- ・『授業づくりシート』の作成と改訂を行うとともに、小中のつながりを確認し、校区の財産となるものにする。
- ・1時間の「めあて」にせまる学習内容を精選し、何をどのように書かせるのか明確にする。
- ・どの児童生徒にもわかりやすい板書に取組み、小中合同授業研究会、合同研修会などを検証の場とする。
- ・基礎基本の定着を図るために、帯タイムや放課後ドリル学習の徹底を図る。
- ・児童生徒の状況把握に努め、具体的な取組を通して、児童生徒間、児童生徒と教職員間の共感的人間関係づくりに繋げる。
- ・家庭学習の強化については、中学校定期試験に合わせて、家庭学習強化週間・ノーメディアデーを設定し、校区全体の取組とする。また、休日のタイムスケジュールの作成をさせる。